

リョウブ	学 名 <i>Clethra barbinervis</i> 別 名
<令法>	分 類 リョウブ科リョウブ属（落葉高木） 分 布 本州、四国、九州、朝鮮（済州島）、中国、台湾 用 途 庭木、公園樹、建築・器具材
解 説	高さ8～10 ^{メートル} になる。樹皮は薄片となつてはがれ、あとは茶褐色でなめらか。冬芽は円錐形で2～3個の鱗変に包まれているが、はがれやすいので裸芽となっていることが多い。葉は枝先に集まって互生し、倒披針形で長さ8～13 ^{センチメートル} 。先は鋭くとがり、ふちに鋸歯がある。7～9月、枝先に総状花序を円錐状にだし、小さな白い花を密につける。花冠は直径5～6 ^{ミリメートル} で深く5裂する。雄しべは10個。雌しべは1個。蒴果は直径4～5 ^{ミリメートル} の扁球形で、毛が密生し、褐色に熟す。種子は多数。
	枝・葉
	幹
	花
	実

